

# 画像診断 AIで支援

## 琉球光和、県内普及へ提携

### エルピクセル開発「エイル」

医療機器販売の琉球光和（秦一社長）と医療用AI開発のLPIXELの鎌田富久CEO＝26日、琉球新報社

医療機器販売の琉球光和。医師の診断を支援するAIで、琉球光和の秦和（秦一社長）と医療用AI開発のLPIXELの鎌田富久CEOは「医師が安心して（エルピクセル、東京都、鎌田富久CEO）はこのほど、エルピクセルが開発した画像診断AIソフト「EIRL（エイル）」の販売に関する業務提携契約を締結した。エイルはCTやMRI、エックス線などの医療画像を分析し、がんなどの異常陰影を発見する。医師の診断を支援するAIで、琉球光和の秦社長は「医師が安心して集中力を発揮できる」とし、県内医療機関での普及を目指している。

エルピクセルによると、エイルは2025年6月時点で全国の1千の医療施設で導入され、解析件数は1200万件。AIが学習するので診断は解析件数が増えることに精度は増す。使用した医師のフィードバックも実施していく。



琉球光和の秦一社長（左）とLPIXELの鎌田富久CEO＝26日、琉球新報社

鎌田CEOは「レントゲン画像では肺がんの見落としが多いが、エイルの活用で防ぐことができる。医師の負担を軽減し、医療の質向上につなげたい」と語った。

（当間詩朗）